

体験活動参加型+講演会型+在宅取組型(小学校)

学校名等	山県市立伊自良北小学校
実施日時	令和2年11月14日(土)9時~12時
会場	伊自良北小学校体育館及び校舎、通学路、各家庭
参加人数	全校30名とその保護者等23家族
学習課題(分野)	防災出前講座 自らの命や大切な人の命を地震から守る ~避難所に行かないための防災~ 命の大切さ・家族の大切さ・自立心・自制心
運営者の願い	家族全員での防災学習、山県市では、校区ごとの防災の講演会を行っており、コロナ禍であるが、この規模の学校では、基準に従い対策を取れば可能ということで家族が参加しての実施。



学習の内容

<講師>岐阜大学 清流の国ぎふ・防災・減災センター特任准教授(地域連携担当) 村岡 治道 氏

<内容>最初にみんなでジャンプして、体育館が揺れるか実験。答えは震度0。

今日は震度7の勉強。

●地震に関するクイズ等

- 揺れ始めて本棚は何秒で倒れるか? ○どうやって命を守るか?
- 何秒で揺れは収まるか? ○走って逃げられるか?
- この体育館で危ない場所に新聞紙を置こう。

●地震の際に自分の体を守る姿勢: ダンゴムシのポーズの正しい方法。「地震速報が聞こえたら、フライングしろ!」

●グループで校内を回り、地震の際の危険箇所を探る。

●7年保存のパン試食:中学生ボランティアが配る。

●防災グッズコーナー:突っ張り棒・留め金各種・下地センサー プレーカー落とし・飛沫防止シート・踏み抜き防止

●クイズ:もしブロック塀があったらどうなるか。

●テスト:地震速報に全員で反応する。

★このあと児童は教室へ行き下校の準備。

◎残った家族で講演を聞く。

- ・日本の建物は震度7でも耐えられる。ウイルス感染が心配なので、地震があっても避難所に行かなくてよいように、家庭で過ごせるように対策をしよう。

●防災とは災いを防ぐことです。(家庭での防災)

- ・映像で家庭内の危険を知る。
- ・地震に対して「どうやって命を守るか」といった地震への家庭教育が今までは抜けていた。
- ・家庭内DIGの実践例、部屋の危険性を確認、脱出ルートの確保が必要。
- ・家庭内対策は「ビデオライブラリー 家庭 消防庁」の検索で確認できる。
- ・防災効果の継続、どこが安全かを知っていることが準備の一つ。

●家族で下校。ブロック塀だけでなく、通学路の危険箇所を確認しながら帰った。



訓練:地震速報に反応



校内危険個所の確認



中学生ボランティアの説明

<アンケートより>

- ・今まで大きな災害に遭うことなく暮らせているので、今回の講座に参加し、改めて災害の恐ろしさを体験でき、どう身を守るべきか、普段からどう対策すべきか考えさせられました。

・子どもたちにもわかりやすく、楽しく参加でき、これまで以上に防災意識が高まったことと思います。これからではなく、すぐにでも身の回りを家族みんなで、確認しながら災害に備えなければいけないと強く感じました。

・今日の講座で今まで思っていた基本の避難と違うお話を聴けて、必ず机の下に隠れなければならないというのは違うのだなあと思いました。ダンゴムシになる場所、方法など、これから生活する中でどう対策をすればよいのか、色々と考えました。



家族ごとに校内の危険個所を考えることは家庭内DIGの実践につながります。

防災グッズの説明や7年保存のパンなどの配布を、ボランティアの中学生が行いました。

クイズやダンゴムシのポーズの練習、校内の活動等があり活動的な講演で、学校の規模に応じた最良の防災講演会に感じました。



家族ぐるみの参加により、アンケートの言葉でもわかるように防災意識の向上が期待できます。

PTA 会長さんが校区にある濃尾地震の碑のお話をされて意識の高さを感じました。

最後に参加者みんなで片付ける動きなど、とても良い雰囲気でした。下校が家族でできることも貴重な実習です。